

スモンの風化を防ぐために

舟川 格 (国立療養所兵庫中央病院神経内科)

陣内 研二 (“ ”)

要 旨

スモンが風化しているか否かを、看護学生からのアンケート調査により検討した。またスモン検診に同行した看護師にも検診後にアンケート調査を行い、検診後の感想を調査した。対象は当院付属の看護学校学生96名で、以下の質問を行った。①スモンの病名を聞いたことがあるか。②病名を聞いたことのある学生には、その原因、症状を知っているか。③「薬害」という言葉から連想する事柄・病気には何があるか。その結果、スモンという病名を聞いたことがある学生は15名/95名(15.8%)で、スモンの原因を知っていた学生は1名(1%)であった。症状は誰も知らなかった。また薬害から連想する事柄、病気の中にはスモンの名が挙げられなかった。検診に同行した看護師(10名)には、①検診前からスモンという病気、言葉を聞いたことがあったか。②スモンの原因を知っていたか。③検診に参加した印象を聞いた。その結果検診前からスモンという言葉を知ったことのある看護師は90%であったが、原因を知っていたのは44.4%であった。検診に参加した印象は、患者・家族の苦勞、スモンという疾患を学ぶいい機会だったとの回答を得た。以上の結果から、スモンは風化していることがわかった。しかし検診に若い看護師を同行させることが風化を防ぐことにつながり、そのことが検診の意義の1つであることがわかった。

目 的

薬害スモンの発生から40余年が経過した。検診会場では患者・家族からスモンの風化を恐れる声を耳にすることがある。今回若い世代ではスモンが果たして風化しているか否かを検討し、もし風化しているのなら、その風化を防ぐために検診の果たすべき役割につ

いて検討した。

方 法

当院付属の看護学生と検診に同行した看護師に、アンケート調査を行った。

1. (神経内科の講義を受けていない)看護学生に対するアンケート

①スモンの病名を聞いたことがあるか? ②a スモンの原因は何か? bスモンの症状にはどんなものがあるか? ③「薬害」という言葉から連想する事柄・病気にはどんなものがあるか

2. 検診に同行した看護師に対するアンケート

①検診前からスモンという病気、言葉を聞いたことがあったか? ②スモンの原因を知っていたか? ③スモン検診に参加した印象は?

結 果

1. 看護学生に対するアンケート

96名中95名から回答を得た。回収率99%であった。年齢は18歳から34歳で平均年齢は19.9歳であった。

①スモンという病名を知ったことのある学生は95名中15名(15.8%)であった。②その15名中、スモンの原因を知っていた学生は1名のみであった(1%)。さらにスモンの症状を知っていた学生は0名であった(0%) (表1)。

③また薬害と聞いて連想する事柄・病気についての質問にはエイズ・HIVが63名、(B・C型)肝炎が11名、麻薬・覚せい剤中毒が9名、血液製剤が5名、副作用が3名、ヤコブ病・BSEが3名、血友病が3名、シンナーが3名、その他が12項目、無回答やなしと答えた学生が18名であった。スモンと回答した学生は1人もいなかった (表2)。

2つぎにスモン検診に同行した看護師にアンケート

表1 結果1 (看護学生)

回答率	95/96 (99%)
年齢	18~34歳 (19.9歳)
スモンという病名を聞いたことがある	15/95 (15.8%)
スモンの原因を知っていた	1/95 (1%)
スモンの症状を知っていた	0/95 (0%)

表2 結果2 (看護学生)

「薬害」と聞いて連想する疾患・言葉			
エイズ/HIV	63名	アルコール中毒	1名
B/C肝炎	11名	水俣病	1名
麻薬/覚せい剤中毒	9名	イタイタイ病	1名
血液製剤	5名	アナフィラキシーショック	1名
副作用	3名	サリドマイド	1名
ヤコブ病/BSE	3名	ハンセン病	1名
血友病	3名	安部 英	1名
シンナー	3名	サリン	1名
タバコ	1名	裁判	1名
パーキンソン病	1名	意味がわからない	1名
		無回答・なし	18名

を行った。10名中10名から回答を得た。回収率は100%であった。

①検診前からスモンという言葉を知っていた看護学生は9名であった(90%)。②そのうちスモンの原因を知っていた看護学生は4名であった(44.4%) (表3)。

③検診に参加した印象を尋ねたところ、患者の苦勞、疾患を学ぶいい機会だったとの回答が多かった(表4)。

考 察

薬害スモンの発生から40余年が経過した。今回若い世代(スモンの発生後に生まれた世代)でスモンが果たして風化しているか否かを検討した。看護学生のうちスモンという病名を知っているものは15名と予想以上に多かったが、その原因を知っているものは1名のみで、症状を知っているものは皆無であった。また薬害と聞いて連想する疾患には「スモン」の名は挙げられなかった。少なくとも今回調査した若い世代においては残念ながらスモンは完全に風化していることがわかった。しかしこの結果は必ずしも予想外のことではない。たとえば当院が存在する兵庫県での大きな出来事に阪神大震災があったが、その出来事や地震発生時期を鮮明に覚えている県外の人々は年々少なくな

表3 結果1 (看護師)

検診前から	
スモンという言葉を知っていた	9/10 (90%)
スモンの原因を知っていた	4/9 (44.4%)

表4 結果2 (看護師)

検診に参加した印象
①今後病状が進行すると大変だろうと思った。 (高齢者の一人暮らし)
②身体・精神的苦痛を抱えての生活(2名)。
③疾患を学ぶいい機会だった(3名)。
④前向きに生きていることに勇気付けられた。
⑤風化させてはいけない。
⑥病状に個人差があり、薬害の重要性を認識した。

るのが現状であろう。ましてやスモンは40年余り前に出現した病気である。大切なことはスモンが風化している現実を嘆くのではなく、風化の進行を防止するためにどうしたらいいかを考えることである。風化防止を声高く叫んでも一般国民には無関係な出来事としてしか聞こえないであろう。しかし今回検診に同行した看護師からの調査では、検診に同行することにより、患者を直接診察し、患者・家族と話をすることができた。そのことによって疾患の理解が深まり、またその結果を検診後に同僚に伝達するよって風化を防ぐことができることが期待できる。その意味でも検診の重要性を強調したい。

結 論

若い世代ではスモンは風化している。しかし検診に看護師を同行させることによって風化の防止が少しでも抑制できることが期待できる。

研究成果の刊行に関する一覧表

平成 15 年度研究成果の刊行に関する一覧表

1. 小長谷正明, 松岡幸彦, 松本昭久, 高瀬貞夫, 水谷智彦, 祖父江元, 小西哲郎, 早原敏之, 岩下 宏, 氏平高敏, 宮田和明: スモンの現状 - キノホルム禁止後 32 年の臨床分析 -, 日本醫事新報, 4137: 21-26, 2003

20030813

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
スモンに関する調査研究班
平成 15 年度総括・分担研究報告書

発 行 平成 16 年 3 月 31 日
発 行 所 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
スモンに関する調査研究班
班 長 松 岡 幸 彦
名古屋市名東区梅森坂 5-101
国立療養所東名古屋病院
印 刷 株式会社 一誠社
TEL (052) 851-1171 (代)